

急性期脳梗塞治療ネットワーク

県では、埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク「SSN」が始まっています。

SSNとは、急性期脳梗塞治療が必要な患者さんを、救急隊の判断で秩父管内の病院を経由せずにSSN参加医療機関に直接搬送する仕組みです。

急性期脳梗塞治療とは、血栓を溶かす薬を点滴投与するt-PA治療や、カテーテルで血栓を取り除く血栓回収療法などを行う脳血管内治療です。いずれも発症してから治療を受けるまでの時間が短いほど、麻痺や言語障害などの後遺症を防げる可能性が高まります。

また、SSNは急性期脳梗塞の疑いがある全ての患者さんが対象です。少しでも疑いがあるようでしたら、ためらわずにすぐに救急車を呼んでください（その際に発症時間を記録してください）。

救急隊が症状を確認し、急性期脳梗塞治療が必要な場合は、SSN参加医療機関に受入要請、救急車で直接搬送します。救急隊とSSN参加医療機関との広域連携により、患者さんを迅速・円滑に受け入れることができます。

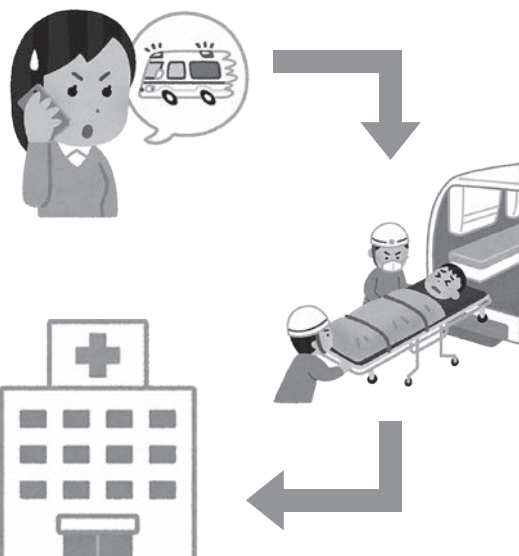
埼玉県北部	基幹病院	深谷赤十字病院 循環器・呼吸器病センター (埼玉医科大学国際医療センター) (埼玉医科大学総合医療センター) (埼玉石心会病院)
	連携病院	関東脳神経外科病院 熊谷総合病院 行田総合病院 羽生総合病院

※SSNは「Saitama Stroke Network」の略称です。

※()は基幹病院を後方支援する医療機関です。

急性期脳梗塞の代表的な発症のサイン

- ・体の片側だけがしびれる、力が入らない、動かせない。
- ・ろれつが回らない。
- ・とっさに言葉が出ない、相手の言うことが理解できない。
- ・左右のどちらかにある物が見えていても認識できない。
- ・片側の目が急に見えなくなる。
- ・めまい、ふらつき。
- ・激しい頭痛 など



問合せ 健康福祉課健康担当 ☎66・3111 内線124

今月のいいとこ長瀨

「川合玉堂が スケッチした 大瀧橋跡地が好き」

大瀧橋の橋脚が残る周辺は、長瀨溪谷の岩畳を彷彿させる素晴らしい場所です。

大瀧橋とは、昔、樋口駅付近と岩田区の大瀧（地名）との間を荒川に架けられていた橋です。玉堂は、この橋を渡る人々の情景に感動してスケッチしたものだと思われます。

橋はその後、洪水で流失し、現在は橋脚のみが残っていますが、玉堂が当時感じた思いを再発見できる場所ではないでしょうか。（村田嘉行さん）

「編集者コメント」

樋口駅荒川側の道路から確認できる大瀧橋跡地。川合玉堂がスケッチするほどの良い風景ということなのでしょう！残っている橋脚から、当時の風景を思い描いてみては。

過ぎし日の足跡が残る場所があるのは、長瀨町のいいところ！

